



# 会報



RIテーマ

クラブ 会長テーマ  
『協調とおもいやり…そして分かちあいの心を』

2008-2-13 第 8 2 5 回例会 NO. 18-30 2008-2-20 発行

◎司会 SAA・親睦委員会 大松 誠二

◎点鐘 会長 村上 久

◎ロータリーソング『日も風も星も』  
ソングリーダー 吉沢 洋景

◎お客様紹介 会長 村上 久

多摩消防署 署長 大江 理一 様

〃 教養担当係長 芳賀 隆 様

津久井RC 所谷 嘉昭 様

東京八王子RC 関戸新一郎 様

◎会務報告 会長 村上 久

・先週、2007-08年度地区指導者育成セミナーへ伊澤、小田、大松会員そして赤尾ガバナー補佐に出席頂きました。ご苦労様でした。

・地区の第2回クラブ会長・幹事会へ出席しました。

※今年度の地区大会は3月28日(金)1日のみ。

※国際大会の2回目最終締切は3月2日。

※会員増強の現況についての報告。

※各種賞への挑戦、チューク水支援の報告。

※06-07年度の地区会計決算報告を採択。

◎幹事報告 幹事 海野 榮一

・特になし

◎次年度会務報告 会長エレクト 伊澤ケイ子

・本日、臨時被選理事会があり、組織一覧表の変更が承認されました。

・第1回被選クラブ運営管理連絡会議の開催について。

・昨日、次年度会長・幹事会がありました。

※7月19日に3グループ合同でIM開催予定。

※親睦野球、ゴルフも継続開催予定。

※地区大会は2月18~20日にグアムで開催。

・2月6日に07-08年度地区指導者育成セミナーが開催され伊澤、大松、小田、赤尾各会員が出席。

※指導者育成セミナーの目的は以下のとおりです。

・会員増強

・成果あふれる奉仕プロジェクトを実施すること。

・ロータリー財団を支援すること。

・クラブの枠を越えてロータリーに奉仕すること。

・能力のある指導者を育成すること。

※地区研修リーダー、川尻バスターガバナーの講演

・親睦と奉仕の調和が大切である。

・国際レベルの奉仕からコミュニティに限った奉仕へ移行する。

・注目の例会回数は毎週もしくは月に2回いずれでもよい。但し、2010年になるのでは?

※シンポジウム「今後のロータリーを考える」

・CLPは簡素化、効率化の運動であるが、「奉仕の精神」、「四大奉仕」は変えてはならない。

・日本での会員減少は10年間で3万人以上である。又、単に会員減少は会員数の減少のみならず、クラブ全体の沈静化を招き、更に会員高齢化、奉仕活動のマンネリ化や委員会活動の惰性の原因になればクラブにとって大問題である。

## 【委員会報告】

◎出席報告 出席奨励委員会 菊池 敏

会員総数 34名

出席義務者数 33名(出席免除者1名)

出席者数 27名

欠席者数 6名(事前MU1名)

出席率 84.85%

補填MU:なし

1/9 最終訂正出席率 75.76%

1/16 最終訂正出席率 84.53%

1/23 最終訂正出席率 75.75%

1/30 最終訂正出席率 78.79%

◎ニコニコBOX SAA・親睦委員会 宮本 誠

東京八王子RC 関戸新一郎様

本日はMU、今から入院です。



- 津久井RC 所谷 嘉昭様  
はじめてお伺いします。長く座っていただけないので早退させていただきます。
- 村上 久 大江消防署長様、卓話宜しくお願ひします。  
海野 榮一 大江署長さん、卓話を宜しくお願ひします。  
伊藤 英也 大江署長さんようこそ。卓話宜しくお願ひします。
- 中谷 紘子 寒い月です。風邪を引きませんように  
大松 誠二 汗をかいたり、恥をかいたり、ついに絵も描きました。立川の展覧会に来てくれてありがとうございます。
- 小田 良生 大江署長様、楽しみにしております。  
伊澤ケイ子 寒いですネ。大江消防署長様、卓話ありがとうございます。
- 足立潤三郎 大江署長さん、卓話ありがとうございます。宜しくお願ひします。
- 赤尾 恭雄 大江消防署長、卓話をありがとうございます。
- 菊池 敏 大江 理一多摩消防署署長の卓話楽しみにしております。
- 津守 弘範 消防署長、大江さんの卓話を楽しみで、良く参考になりますと思ひます。
- 関岡 俊二 多摩消防署長様、卓話楽しみにしています。  
猪股 末男 署長さん、ようこそ。卓話楽しみにしております。
- 加藤喜三郎 大江署長様の卓話楽しみです。  
杉野志保子 署長さん、ようこそ。

**本日の合計¥22,000 (累計¥805,000)**

### ◎卓話「不都合な予測」

多摩消防署 署長 大江 理一 様



本日は、「不都合な予測」というタイトルでお話をさせていただきます。平成18年に東京都は震災時の被害予測を発表しました。それに基づき、

多摩市でも地域防災計画の見直しを行っています。大方の人は震災に見舞われたら、その時はその時でなんとかなるだろうとか、役所や震災になっていない地域の人々が何とかしてくれるだろうと思っているのではないのでしょうか。役所関係は市民の方々に自らの備え、つまり、

自助を呼びかけていますが、市民からの問いかけには鋭意努力すると応えています。今日は本当のところどうなのか。直ぐには何とかしてもらえないという話をいたします。

このスライドは阪神淡路大震災の時の地域ごとの出火件数とその地区のポンプ車の台数、その地区の焼損面積などを示したものです。出火件数をポンプ車の台数で割ったポンプ車1台当りの出火件数と焼損面積に着目して下さい。灘地区では6台のポンプ車に対し、出火件数が16件で1台当り2.7件となっています。建物の密集度の違いはあるにせよポンプ車1台当りの出火件数が2を超えると焼損面積が急激に増加します。このことを覚えておいて下さい。

次に都の震災時の被害予測のなかの多摩市を見ますと発災から一時間後の出火件数は、夏の昼間で28件、夕方31件、冬の昼間で29件、夕方34件となっています。又24時間後は夏の昼間で36件、夕方41件、冬はそれぞれ38件、44件です。さて、多摩消防署には6台のポンプ車そして消防団に10台で計16台のポンプ車があります。ここで出火件数を台数16で割ってみますと限りなく2に近いか2を超えます。明らかに市内のポンプ車台数では延焼の拡大を抑えるのは困難となります。現状は平常時を想定した台数で、維持管理コストの面から増やすことが出来ないのが現実です。では、地震発生による火災はどのように拡大するのでしょうか。東京消防庁の延焼シュミレーションから見てみますと、まず一の宮1丁目で火災が発生した場合、1時間後火災を包囲して消火するには計算上9台のポンプ車が必要となります。同様に3時間後では21台となります。もし2箇所が出火した場合は3時間後ではなんと38台が必要となります。しかし直撃の時は消防団員も被災者になり、発災直後に何台のポンプ車が稼働できるか判りませんし、近隣からの応援も期待できません。これが現実です。万一近くで火災が発生した場合は、消防署や消防団以外の事業所と市民の防災力が強く求められ、又、速やかな避難が必要となります。又、多くの怪我が発生した場合にはトリアージといわれる治療の優先順位を決めるやり方で対応するやり方があります。

以上のような異常な環境のなかで根本的にはどうしたらよいのでしょうか。それは『怪我をしないで生き延びる』ということです。大切なことは、時々周りを見渡して考えて下さい。果たして自分は、そして家族は怪我をしないで生き延びられるかと。

◎点鐘

会長 村上 久

(今週の担当 城 正太)